

# 宮城県保健環境センター 課題評価結果対応方針

平成31年3月28日

宮 城 県

## 目 次

### 【事前評価】

整理番号 1	宮城県内に生息するマダニの病原体保有状況調査	1
整理番号 2	県内に流通する農作物中のネオニコチノイド農薬の実態調査	2

### 【中間評価】

整理番号 3	宮城県におけるPM <sub>2.5</sub> 中のレボグルコサン及び有機酸の解析	3
--------	--	---

### 【事後評価】

整理番号 4	野生動物及び豚のE型肝炎ウイルス浸淫状況とリスク評価	4
整理番号 5	機器分析法による下痢性貝毒の分析法の確立と適応性の検証	5
整理番号 6	底層溶存酸素量と生物種の関連性の調査－湖沼への類型指定に向けて－	6

### (参考資料)

- 1 平成30年度課題評価調書
- 2 平成30年度宮城県保健環境センター課題評価結果報告書

**【事前評価】**

整理番号	1	研究区分	経常研究	研究期間	平成31～32年度			
研究課題名	宮城県内に生息するマダニの病原体保有状況調査							
評価結果	I 項目別評価							
	評価項目 \ 評価 (点)	5	4	3	2	1	平均 (点)	結果
	課題の重要性・必要性 (人)	4	3				4.6	5
	計画の妥当性 (人)	1	4	2			3.9	4
	成果及びその波及効果 (人)	3	4				4.4	4
	【項目別評価 評価基準】 5：高い 4：やや高い 3：普通 2：やや低い 1：低い							
	II 総合評価							
	総合評価 \ 評価	AA	A	B	C	D	平均 (点)	結果
	総合評価 (人)	4	2	1			4.4	A
	【総合評価 評価基準】 AA：計画は極めて優れている A：計画は優れている B：計画は妥当である C：計画の一部に課題がある D：計画の見直しが必要である							
III 意見等								
<p>①本研究により、マダニによる感染予防啓発等が可能となり、感染リスク低減が図られることが期待できると思われる。</p> <p>②ダニ媒介性感染症は、発症した場合には致死率が高く、今後、感染地域が拡大する可能性もあることから、注意喚起と予防対策のために県内のダニ媒介病原体の実態を把握することは、喫緊の課題と言えると思われる。</p> <p>③感染症対策は県がリーダーシップをとって進めるべき重要な課題であり、広域的に実態調査を実施することとしている本研究は必要性の高い調査と思われる。</p> <p>④得られた成果は、感染予防対策を講じるうえで重要であり、医療機関や県民に情報提供して注意喚起を促す必要があると思われる。</p> <p>⑤ダニのハザードマップ作成を目指すのであれば、仙台市との協力も行っていただきたい。</p> <p>⑥公園等人の多く集まる場所を中心に採材する計画だが、家畜との関連もあることから、放牧場などできるだけ広範囲に調査していただきたい。</p>								
対応方針	<p>④得られた成果は、感染症発生予防の観点から重要であり、ホームページへの掲載や公衆衛生関連雑誌への投稿などを通じて、医療機関や県民、市町村に広く情報を提供し、注意喚起に繋げてまいります。</p> <p>⑤仙台市が同様の調査を行う場合は、情報を共有しながらハザードマップの作成を目指してまいります。</p> <p>⑥計画時には、放牧場等のダニに由来する病原体に関しては想定しておりませんでしたので、改めて放牧場などの家畜関連地点調査の必要性を検討してまいります。</p>							

整理番号	2	研究区分	経常研究	研究期間	平成31～32年度			
研究課題名	県内に流通する農作物中のネオニコチノイド農薬の実態調査							
評価結果	I 項目別評価							
	評価項目 \ 評価(点)	5	4	3	2	1	平均(点)	結果
	課題の重要性・必要性(人)	2	5				4.3	4
	計画の妥当性(人)		7				4.0	4
	成果及びその波及効果(人)	3	4				4.4	4
	【項目別評価 評価基準】 5：高い 4：やや高い 3：普通 2：やや低い 1：低い							
	II 総合評価							
	\ 評価	AA	A	B	C	D	平均(点)	結果
	総合評価(人)		7				4.0	A
	【総合評価 評価基準】 AA：計画は極めて優れている A：計画は優れている B：計画は妥当である C：計画の一部に課題がある D：計画の見直しが必要である							
III 意見等								
<p>①本研究により、県における化学物質分析技術のさらなるレベルアップが図られることが期待でき、検査研究機関として必要な技術の向上に有効な課題であると思われる。</p> <p>②本研究は、県内に流通する農作物の安全性に関する情報提供のために有効であり、人体への曝露についての実態把握は大変重要であると思われる。</p> <p>③輸入農作物の調査に当たっては、規制の進んでいるEU諸国とそれ以外の国とに分けて分析及び整理して欲しい。さらに、農作物を穀類、果実類、野菜類に分けて分析及び整理して欲しい。そのための研究期間延長も検討に値すると思われる。</p> <p>④日本の基準の他、欧州などの基準との比較といった視点でも調べてみると良いと思われる。</p> <p>⑤結果の公表及び情報提供の際には、県民に正しい理解が得られるよう、十分な説明を慎重に行う必要があると思われる。</p> <p>⑥将来的には、地下水や河川水、魚類等の環境中への影響にも展開され、環境への影響評価とそのリスクの情報発信ができるよう、プロジェクト研究等への発展を期待したい。</p>								
対応方針	<p>③輸入農作物は、EU諸国とそれ以外の国に分け、分析・整理いたします。また農作物の区分についても、分析法の適用性を考慮し検討してまいります。調査研究の進捗状況によっては研究期間を延長することも検討してまいります。</p> <p>④検査結果に関する考察の際には、欧州などの基準との比較を行ってまいります。</p> <p>⑤結果の公表に当たっては、県民に対して正しい理解が得られるよう丁寧な説明を心がけてまいります。</p> <p>⑥本調査研究の結果を踏まえ、今後、農作物以外の検体を対象とした調査研究の実施について検討してまいります。</p>							

【中間評価】

整理番号	3	研究区分	経常研究	研究期間	平成28～33年度			
研究課題名	宮城県におけるPM <sub>2.5</sub> 中のレボグルコサン及び有機酸の解析							
評価結果	I 項目別評価							
	評価項目 \ 評価(点)	5	4	3	2	1	平均(点)	結果
	課題の重要性・必要性(人)	1	5	1			4.0	4
	計画の妥当性及び進捗状況(人)		5	2			3.7	4
	成果及びその波及効果(人)	2	5				4.3	4
	【項目別評価 評価基準】 5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い							
	II 総合評価							
	評価 \ 評価	AA	A	B	C	D	平均(点)	結果
	総合評価(人)		5	2			3.7	A
	【総合評価 評価基準】 AA:計画及び進捗状況は極めて優れている A:計画及び進捗状況は優れている B:計画及び進捗状況は妥当である C:計画及び進捗状況の一部に課題がある D:計画の見直しが必要である							
III 意見等								
<p>①国際的にも問題のあるPM<sub>2.5</sub>について、大気汚染をモニタリングして対策を実施する立場にある県として、発生源の特定につながる成分分析の体制を整えて、地域における実態を把握することは、今後の対策を考えるためにも非常に有効になると思われる。</p> <p>②PM<sub>2.5</sub>の詳細な成分組成解析であり、測定法の最適化と継続した観測によりPM<sub>2.5</sub>汚染が問題になった場合の迅速な対策が可能になると思われる。</p> <p>③本研究は、分析手法等について適宜計画を見直しながらより良い成果が得られるよう工夫し、継続的な取組みがなされており、評価できると思われる。</p> <p>④これまでに一定の成果が出ており、得られた情報の県民への還元を検討いただきたい。</p> <p>⑤バイオマス混焼火力発電所の稼働前後の調査で、レボグルコサン量に変動がほとんどなかったことから環境への影響が少ないことを示す根拠となる可能性があるが、レボグルコサンの環境動態を的確に把握できているのか、試料採取の方法を含めて継続して解析を行い、検討いただきたい。</p> <p>⑥発生源の推定に関しては、流跡線解析など気象データを活用した解析も重要であるので、活用して考察をしていただきたい。</p>								
対応方針	<p>④保健環境センター研究発表会での発表やホームページでの公表など、県民に対して積極的に情報を提供してまいります。</p> <p>⑤採取した試料のPM<sub>2.5</sub>の試料濃度が採取場所近隣の大気汚染観測局におけるPM<sub>2.5</sub>の質量濃度と同等であるため、試料採取方法等は妥当だと考えておりますが、今後ともレボグルコサンの環境動態を的確に把握するよう確認してまいります。</p> <p>⑥気象データを活用した解析について、検討してまいります。</p>							

【事後評価】

整理番号	4	研究区分	経常研究	研究期間	平成28～29年度			
研究課題名	野生動物及び豚のE型肝炎ウイルス浸淫状況とリスク評価							
評価結果	I 項目別評価							
	評価項目 \ 評価 (点)	5	4	3	2	1	平均 (点)	結果
	計画の妥当性 (人)	1	6				4.1	4
	目標の達成度及び成果の波及効果 (人)	6	1				4.9	5
	【項目別評価 評価基準】 5：高い 4：やや高い 3：普通 2：やや低い 1：低い							
評価結果	II 総合評価							
	評価 \ 評価	AA	A	B	C	D	平均 (点)	結果
	総合評価 (人)	1	6				4.1	A
	【総合評価 評価基準】 AA：成果は極めて優れている A：成果は優れている B：成果は妥当である C：成果の一部が不十分である D：成果は不十分である							
	III 意見等							
①県内の野生イノシシからE型肝炎ウイルス遺伝子を初めて検出するなど県内の野生イノシシ及びシカのE型肝炎ウイルス浸淫状況を明らかにした価値は高いと思われる。								
②県内のE型肝炎ウイルス浸淫状況を把握できたことは、感染予防に関する啓発や注意喚起の促進において貢献できたと思われる。								
③本研究には、生カキに用いたウイルス抽出方法が応用されており、保健環境センター独自の着想、分析技術の確立に至ったことは、評価が高いと思われる。								
④予算および研究員を充実して、県内全域に拡大したサーベイランスを展開し、今後定期的に野生動物内での動向を調査することにより、リスクの増減や感受性動物種の変化などの追跡をしていただきたい。								
⑤感染予防のために正しい知識が周知されるよう、広報活動に努めていただきたい。								
⑥仙台市についても、協力を図るなどして情報を収集できるようにしていただきたい。								
対応方針	④動物由来感染症のうち、健康被害が大きい病原体の県内動態を定期的に調査し、平時からの安全性を評価することは、行政としての研究の重要な使命であり、当該感染症への対策を講ずる上でも重要と考えますので、今後とも計画的に研究を進めてまいります。							
⑤関係機関への情報提供と、ホームページへの掲載や出前講座などにより県民への周知を行ってまいります。なお、平成30年3月には、E型肝炎のリスクについて、一部の猟友会及び関係する町に対して説明会を実施しております。								
⑥仙台市に同様の調査や計画がある場合には、協力を図り情報を収集いたします。								

整理番号	5	研究区分	経常研究	研究期間	平成28～29年度			
研究課題名	機器分析法による下痢性貝毒の分析法の確立と適応性の検証							
評価結果	I 項目別評価							
	評価項目 \ 評価 (点)	5	4	3	2	1	平均 (点)	結果
	計画の妥当性 (人)	2	5				4.3	4
	目標の達成度及び 成果の波及効果 (人)	7					5.0	5
【項目別評価 評価基準】 5 : 高い 4 : やや高い 3 : 普通 2 : やや低い 1 : 低い								
評価結果	II 総合評価							
	評価 \ 評価	AA	A	B	C	D	平均 (点)	結果
	総合評価 (人)	5	2				4.7	AA
【総合評価 評価基準】 AA : 成果は極めて優れている A : 成果は優れている B : 成果は妥当である C : 成果の一部が不十分である D : 成果は不十分である								
評価結果	III 意見等							
	① 県気仙沼水産試験場との共同研究により、当初計画で予定されていなかった毒化したマボヤにおけるオカダ酸群の器官局在性を初めて明らかにしており、より発展性のある研究となったと思われる。							
	② 水産振興において役立つ成果であり、県の水産業への貢献も評価できると考えられる。							
	③ 性能評価基準を満たした上で、効率化と経費削減を達成しており、当初の目的は達成されたと考えられる。							
	④ 麻痺性貝毒の機器分析法への応用にも期待したい。							
対応方針	④ 今後、麻痺性貝毒の機器分析の導入に関する国の動向を注視してまいります。							

整理番号	6	研究区分	経常研究	研究期間	平成28～29年度																									
研究課題名	底層溶存酸素量と生物種の関連性の調査－湖沼への類型指定に向けて－																													
評価結果	I 項目別評価																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目 \ 評価 (点)</th> <th>5</th> <th>4</th> <th>3</th> <th>2</th> <th>1</th> <th>平均 (点)</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画の妥当性 (人)</td> <td></td> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>4.0</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>目標の達成度及び 成果の波及効果 (人)</td> <td></td> <td>4</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td>3.6</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目 \ 評価 (点)	5	4	3	2	1	平均 (点)	結果	計画の妥当性 (人)		7				4.0	4	目標の達成度及び 成果の波及効果 (人)		4	3			3.6	4	【項目別評価 評価基準】 5：高い 4：やや高い 3：普通 2：やや低い 1：低い				
	評価項目 \ 評価 (点)	5	4	3	2	1	平均 (点)	結果																						
	計画の妥当性 (人)		7				4.0	4																						
目標の達成度及び 成果の波及効果 (人)		4	3			3.6	4																							
II 総合評価																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総合評価 \ 評価</th> <th>AA</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> <th>平均 (点)</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合評価 (人)</td> <td></td> <td>3</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td>3.4</td> <td>B</td> </tr> </tbody> </table>	総合評価 \ 評価	AA	A	B	C	D	平均 (点)	結果	総合評価 (人)		3	4			3.4	B	【総合評価 評価基準】 AA：成果は極めて優れている A：成果は優れている B：成果は妥当である C：成果の一部が不十分である D：成果は不十分である													
総合評価 \ 評価	AA	A	B	C	D	平均 (点)	結果																							
総合評価 (人)		3	4			3.4	B																							
III 意見等																														
<p>①湖沼の生息魚種と水質について同時に着手するという先進的な取組みは評価できると思われる。</p> <p>②県内一部の湖沼ではあるが、水質・DOの水平及び垂直分布の把握と、生息魚種との関係を把握できたことは、生存環境及び水生生物種の保全において重要であると考えられる。</p> <p>③今後の類型指定に活用するためには、流域も含む湖沼の地形条件、植生状況、渡り鳥の飛来及び生息状況、流入水の状態等についても整理しておいた方が良いと思われる。</p> <p>④生息魚種の貧酸素耐性値、生息地域などの調査結果が十分でないため、環境省からのマニュアルを参考に検討を行い、類型あてはめを進めていただきたい。</p> <p>⑤水環境における生物学的な調査は非常に重要と考えられるため、継続して調査を行っていただきたい。</p> <p>⑥新たな指標である底層DOの役割を、どのように県民に啓発及び周知していくのか、その方法の工夫についても期待したい。</p>																														
対応方針	<p>③今後の類型指定に当たっては、様々な情報を収集・整理した上で、対応してまいります。</p> <p>④類型指定に当たっては、今後予定されている環境省のマニュアルを参考に必要な情報を収集し進めてまいります。</p> <p>⑤国立環境研究所及び他自治体の地方環境研究所との共同研究など、引き続き調査研究を進めてまいります。</p> <p>⑥国、県等の動向を踏まえ、県民への啓発方法や周知方法について検討してまいります。</p>																													